

# 構造改革特別区域計画

## 1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

島根県邑智郡美郷町

## 2 構造改革特別区域の名称

美のさと・美郷 ～潤いのどぶろく特区～

## 3 構造改革特別区域の範囲

島根県邑智郡美郷町の全域

## 4 構造改革特別区域の特性

### (1) 位置・面積

美郷町は、島根県のほぼ中央に位置し、県面積の約 4.2%にあたる 282.92k m<sup>2</sup>を有している。東を飯南町、北を大田市、西を川本町、南を邑南町に接しており、町の北西部には標高 200m前後の平坦地が、南西部には標高 300m前後の丘陵地帯が広がっている。また、東部には標高 400mから 700mの山々が中国山地へと連なっている。

### (2) 地勢

町内を貫流している江の川沿岸部では、浸食により形成された急峻で起伏に富んだ地形が特徴的な景観をつくっている。わずかな居住可能地のほかは大部分を山林が占めており、森林資源が豊富な地域である。

### (3) 気候

山陰地方特有の低温多湿型で、年間の平均気温は 13.5℃程度、降水量は 1,700mm 前後である。江の川沿岸部に比べ、南部の高原地帯の方が平均気温が 1～2℃低く、最深積雪量も多くなっている。

### (4) 人口・世帯

平成 17 年国勢調査の結果では、人口は 5,911 人、世帯数は 2,310 世帯である。平成 12 年調査時から、人口では 713 人 (△10.8%)、世帯では 226 世帯 (△8.9%) が減少している。人口の減少率は県内で最も高く、特に若年層の流出が顕著である。

年齢別の人口では少子高齢化の傾向が高まっており、平成 17 年には 15 歳未満が 10.4%、

15～64 歳が 48.2%、65 歳以上が 41.4%となっている。男女別では、男性が 46.8%、女性が 53.2%である。

#### (5) 産業

平成 17 年国勢調査によると、全体の就業者数は 2,801 人であり、産業 3 部門別の就業割合は第一次産業が 19.9%、第二次産業が 28.0%、第三次産業が 52.0%と、第三次産業への就業が中心である。しかし、全国平均と比較すると第一次産業への就業割合は高くなっている。産業別に見ると、最も多いのが農業(19.4%)であり、次に建設業(15.6%)、医療・福祉(12.7%)、製造業(12.1%)と続く。

平成 16 年度の町内総生産額は、島根県全体の約 0.8%にあたる 194 億 9 千 4 百万円であるが、農業出荷額は全体で 8 億 5 千万円であり、このうち米と畜産物(肉用牛)が多くを占めている。工業製品出荷額は全体で 17 億 2 千万円である。

#### (6) 交流・観光

平成 19 年 7 月に、本町に隣接する大田市にある「石見銀山遺跡」が世界遺産登録され、銀山遺跡がある大田市大森町には年間約 30 万人もの観光客が訪れるようになった。また、この石見銀山で採れた銀を輸送した街道も歴史的な価値が認められており、特に江戸幕府が銀山を管轄した慶長年間になると、銀山街道と呼ばれる道が整備され、大森から美郷町を通過して尾道まで大量の銀が牛馬で運ばれていた。この銀山街道が美郷町内約 28 km を走っており、この道筋には今でも銀山にまつわる史跡が数多く残っている。

このことから、美郷町の自然・社会的条件及び銀山街道やツーリズムを、つながりを持たせた取り組みとして最大限に活かすことが美郷町の活性化につながるものと考えている。

本町では、これまで県外者をターゲットにした茶摘み体験ツアーや山菜ツアーといった農村体験により都市農村交流に取り組んできた。そのような中、平成 16 年 2 月には銀山街道沿いに I ターン者が経営する農家レストランがオープンし、平成 17 年 4 月には、周辺農家などがつくったグループ「ゆるりの里」が、島根県が推進する田舎ツーリズム事業の登録第 1 号として認定された。また、平成 18 年には比之宮地区で農家 12 戸によるグリーンツーリズムが実施されるなど、農家民泊によるツーリズムが動きだしたところである。

さらに、農家レストラン「ゆるり」では、石見銀山の代官をもてなした料理を再現した「代官料理を味わう夕べ」を開催し、地域の自然や歴史、文化を活用した取り組みを展開している。

## 5 構造改革特別区域計画の意義

現在、団塊の世代や高齢者を中心としたグリーンツーリズムへの関心の高まりと銀山街道ウォーキングなどのイベントなどによる来訪者の増加などにより、農家民泊などの農村体験の需要が増加している。

この銀山効果・田舎志向をさらに効果的に進めるためには、農家民泊や農家レストランにおける体験メニューの拡大や独自のサービス提供など地域独自の取り組みが必要である。

中山間地域の閉塞性の突破口として、全国に通用する新たな地域産業を創出するための起爆剤とすべく、どぶろく特区を用いて地域の活力を創出する。

## 6 構造改革特別区域計画の目標

I ターン者が中心となり立ち上げた農家民泊・農家レストラン等による活性化の動きを地域全体に波及させるとともに、豊かな自然や歴史的遺産などの地域資源に付加価値を加えることにより、新たな美郷の魅力をつくる。

さらに、地域の魅力、人の魅力を活かした都市農村交流事業である田舎ツーリズムを推進するため、受入体制の充実とPRの拡大を図り、経済効果や社会的効果の向上を目指す。

これにより、農家民泊・農家レストランの利用客が増加し、農家や地域の活力向上ひいては全町的な活性化を図ることを目標とする。

## 7. 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

今回申請した特区が実施されることにより、美郷町でこれまで推進してきた、農家民泊や銀山街道ウォーキングなどの田舎ツーリズム事業に付加価値ができ、農家民泊利用客・銀山街道観光客等の増加が見込める。

特に、平成19年7月に世界遺産登録された石見銀山遺跡への観光客のうち、家族単位・個人単位での観光客は、銀山周辺観光への志向が強く、また、農家民泊などを利用して安く旅行するという傾向がある。

特区の実施は、上記の理由から観光客の増加につながり、農家レストラン・農家民泊の収益の向上が図られる。また、人の交流が増加することにより周辺地域の活性化及び美郷町観光事業の活性化に繋がる効果がある。

特区実施による経済的・社会的効果が具体的にどの程度見込めるのかを明らかにするために、次のとおり指標及び目標数値を設定する。

### (1) 農家民泊登録戸数及び農家民泊利用者数の増加

地域の魅力、人の魅力を活かした都市農村交流事業である田舎ツーリズムを推進し、受入体制の充実及び農家民泊利用客の増加が期待される。

	平成19年度	平成22年度	平成25年度
農家民泊登録戸数	15戸	20戸	30戸
農家民泊利用者数	34人/年	80人/年	120人/年

## (2) 観光客数の増加

銀山街道ウォーキングや農家レストランによる代官料理再現イベント等の実施に、濁酒を加えることにより、石見銀山関連の観光客数増加が期待できる。

	平成19年度	平成22年度	平成25年度
代官料理再現イベント参加者数	120人/年	150人/年	180人/年
銀山街道ウォーキング参加者数	414人/年	450人/年	500人/年
農家レストラン利用客数(団体)	378人/年	500人/年	600人/年

## (3) 新たな産業の創出

農家レストラン等による自家製の濁酒製造は、小規模ながらも新たな産業として期待できる。また、将来的には、農家民泊においてどぶろくの原料となる米作り体験等農業体験メニューの一つの目玉となることが期待される。

	平成19年度	平成20年度	平成25年度
農家レストラン・農家民泊による濁酒製造件数	0件	1件	3件

## (4) その他関連特産品への波及効果

美郷町が全国に通用する特産品ブランドとして推進している「おおち山くじら」の名称で親しまれる「いのしし肉」は、生産から流通までの基盤が確立してきた。

また、本町は江の川流域に位置しており、古くから江の川の水運によって発展してきた歴史をもち、この江の川で獲れた鮎を使った郷土料理の「アユベか」は、この地域でしか味わえないたいへん貴重な「食」となっている。

この「おおち山くじら」と「どぶろく」、「アユベか」と「どぶろく」をセットにし、この地域でしか味わえない特産品として提供することにより、町内入り込み客の増加が期待できる。

## 8. 特定事業の名称

707（708） 特定農業者による特定酒類の製造事業

## 9. 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

### (1) 田舎ツーリズム推進事業

地域の魅力、人の魅力を活かした都市農村交流事業である田舎ツーリズムを推進し、受け入れ体制の充実及び農家民泊利用客の増加を図る。

また、どぶろくを利用した農家民泊体験メニューやイベントの展開により、農家民泊利用客数及び来訪者の増加を図る。

### (2) 誇りのもてる産業おこし支援事業

農業・林業・商工業を取り巻く厳しい情勢の中で、将来に明るい展望を見いだすため、後継者をはじめとする地域住民の豊かな創造力と行動力により、住みよい地域づくりの気運をつくり、地域特性を生かした生産性の高い産業おこしを目的とする「美郷町誇りのもてる産業おこし支援事業」により、濁酒製造のための機械装置等の設置及び研修・地域づくり等の事業を行い、産業おこしによる地域活性化を図る。

### (3) 関連団体との連携

おおち山くじら倶楽部・美郷町ブランド研究会といった特産品の生産団体との連携により本町特産品とのコラボによる付加価値を与える。

また、美郷町観光協会・銀山街道関連団体との連携によるイベント等の展開により、町内入り込み客の増加を図る。

上記の特産関係団体、銀山街道関連団体等との連携により、他地域にはない本町の特徴を最大限に活かす。

※別紙 構造改革特別区域において実施又は実施をしようとする特定事業の内容、実施主体及び開始の日並びに特定事業ごとの規制の特例措置の内容